

平成29年度 第3回生駒市環境審議会 会議録

1 開催日時 平成30年2月23日（金）14時00分～16時30分

2 開催場所 生駒市役所 4階 401・402会議室

3 審議事項

(1) 第3次生駒市環境基本計画の策定について

(2) 歩きたばこ及び路上喫煙禁止区域の指定について

(3) その他

(以下、敬称略)

4 会議出席者

会長 中西達也

副会長 水谷知生

委員 下村晴意 成田智樹 河瀬玲奈 藤堂宏子 上武敏一

池田憲央 竹本和靖 矢田千鶴子 遊津隆義 横井明弘 山本裕子

事務局 石畑欽一 地域活力創生部長

吉岡源裕 市民部長

吉川和博 環境保全課長

川島健司 環境モデル都市推進課長

竹本好文 環境保全課主幹

木戸勇 環境保全課課長補佐

大窪奈都子 環境モデル都市推進課課長補佐

田所智 環境保全課環境保全係長

北里直之 環境モデル都市推進課地球温暖化対策係長

竹田有希 環境モデル都市推進課地球温暖化対策係員

オブザーバー 株式会社地域計画建築研究所 長澤、森野

5 傍聴者 なし

14時00分 開会

6 審議内容

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

自分は朝型の人間で6時過ぎには事務所に出ているが、6時半頃になると明るく、東の空を見るとき綺麗な朝の景色が見える。早起きして良かったなと思う瞬間である。これから暖かくなり、心も逸る季節となってきた。この会議でも闊達な意見を出してもらいたい。

(3) 審議事項

以下、発言要旨。

- 中西達也会長** 会議の成立について事務局に報告を求める発言。
- 事務局** 会議の成立について報告。全委員14名のうち13名の出席により会議は成立。
- 中西達也会長** 事務局に傍聴者の報告を求める発言。
- 事務局** 傍聴者はなし。
- 中西達也会長** 案件1「第3次生駒市環境基本計画の策定について」審議を宣告。
- 事務局** 事務局に説明を求める発言。
- 生駒市の環境の現状と課題についてワークショップでの議論を踏まえて整理を行った。その中で抜け落ちてしまっている視点等がないかについて意見をいただきたい。
- 資料1「第3次生駒市環境基本計画の全体構成(案)」、資料2「第3次生駒市環境基本計画策定方針(素案)」、資料3「関連計画の整理」、資料4「生駒市の環境に関する現状」、参考資料4「市民アンケート調査結果」をもとに、主要な内容を説明。
- 資料2については、前回の審議会で計画期間10年は長いのではないかという意見があったため、中間見直しを追加したことを説明。
- 資料3、3ページ中段表について、市内エネ消費欄の「※参考」はH27年度の実績のため追記。再エネ率についてH23比とあるが、比較ではないので「H23比」を削除。同段「※参考」にあるH27は削除、と修正を依頼。
- 中西達也会長** 事務局からの説明について委員からの質問、意見を求める発言。
- 藤堂宏子委員** 資料4 16ページ図表30と17ページ図表32について、単位がMWhとkWhになっている。数字が煩雑になるため合わせたほうがよいのではないか、との発言。
- 事務局** どちらかに統一する、と回答。
- 横井明弘委員** 資料3 3ページ中段の表で、市内エネルギー消費の実績は達成率185%となっている。数字としては「-9.2%」で良いか、マイナスの表記が抜けているのではないか、との確認。
- 事務局** -9.2%である、と回答。
- 成田智樹委員** 再エネ率の「参考達成率51%」は何に対しての達成率なのか、との質問。
- 事務局** 平成30年度に16.5%という目標を立てており、それに対する達成率を出している。
- 中西達也会長** 達成率は目標に対してどうかということで、表にするのは見やすくするため。後ほどでも良いので一読してわかるように、比較対象、数値目標を欄外でもかまわないので記載してほしい。確認になるが、この「関連計画の整理」はこのまま基本計画に反映されるものではなく、今までの会議の中で出た意見をもとに整理した資料ということである。その上で、この数値は審議会で使用した資料に記載されているため、後日で良いので回答の

準備をしてほしい、との発言。

矢田千鶴子委員

この表については、先に文言の訂正もあったため、表自体を差し替えたほうがわかりやすいと思う、との発言。

中西達也会長

表を差し替えてもらうときに追加の表記をしてほしい、との発言。

藤堂宏子委員

環境基本計画策定にあたっては、新しい総合計画と齟齬の無いように進めてもらいたい、との発言。

横井明弘委員

資料4 12ページの再資源化の取り組みの箇所に記載されている再資源化率について、分母、分子はそれぞれ何か、との質問。

事務局

分母はごみの総量。分子は、びん・缶・プラスチック製容器包装・新聞等（ミックスペーパーを含む）、と回答。

山本裕子委員

感想だが、資料4 11ページに路上喫煙禁止区域のマークがある。前回、駅周辺が禁止区域に指定されると知った。環境先進都市として、市全体を禁煙にするなど、大胆な取り組みはできないか、との発言。

中西達也会長

それについては案件2の議題に関連するため、後ほど説明いただきたい、との発言。

山本裕子委員

同ページにペットのことも触れているが、ペットを飼われている人が多い。フンの始末などもう少し配慮する環境にならないか。また燃えないごみ、例えば傘などの処理について、その方法や有料制を一考することにより家に不用品が増えないようにできるのではないか、との発言。

矢田千鶴子委員

傘は解体せずに出せるようになり、出しやすくなる、との発言。

中西達也会長

傘の解体とはどういうことか、との質問。

事務局

燃える布部分と金属部分を分別して出してほしいということである。4月から直径15センチまでは傘や金属製のポールなど混在してもよく、1m以内であれば30L（30円）の有料袋をかぶせることで、出せることとなった、と回答。

藤堂宏子委員

市から市民にもっとアピールする必要はあるかと思うが、ごみの処理費用というのはとても高いものである。有料制については、ごみを排出する人がその量に応じて費用負担するという一方で、ある意味平等性が担保されている。何でも無料が良いということでもないのではないか、との発言。

矢田千鶴子委員

資料1について、ワークショップに2回ほど出席したが、意見に偏りが出てくる。興味のある部分はあれもこれも言いたいけれど時間も短く、意見を言い切れない。ワークショップの結果を反映、となっているがそのような偏りをどのように補完していくのかを知りたい、との質問。

中西達也会長

自身も同様の問題意識を持っていた。後半の議論で確認したい、との発言。

河瀬玲奈委員

資料4 15ページ図表27床面積あたりの温室効果ガス排出量について、空き家や空きオフィスの総床面積も数値に入ってくるので、それらが増えると効率が良いという結果になる。例えば、生産額当たりにするなどにしないと、誤解を招く数値となってくる印象がある、との発言。

事務局

これは、環境モデル都市として既に内閣府に報告した数字になるが、床面積だけで比較するのは難しいと思う。事業所数や世帯数などと比較しながら表現できないか検討したい、と回答。

- 中西達也会長** 内閣府への報告はこれでよいのだろうが、実態としてこれでいいのかという指摘なので、それも踏まえて工夫いただきたい、との発言。
- 水谷知生委員** 参考資料4 平成9年度との比較について、例えば11ページだと「満足している」または「ある程度満足している」がどれも増えている。どの項目も単純に比較してよい内容であるのか、との質問。
- オブザーバー** まったく同じというものではない。平成29年度実施分では、選択肢に「わからない」という項目が増えた。設問についても少し変わっており、あくまでも参考として見ていただければと思う、との発言。
- 矢田千鶴子委員** これについては、生駒市に住んで何年かによって変わると思う。以前から居住していた人の評価だと空気や水がよくない評価になるかもわからないが、他市から転入してきた人が増えると生駒は空気がきれいだと思うだろう。分母の構成によって変わると思う。全体的に、環境に満足している人が多いと自分は捉えた。生駒を愛すると、環境を守ろうとするのではないかと解釈した、との発言。
- 中西達也会長** 生駒に住みたくて住んでいる人が多いので、どちらかという満足度が上がるのではないか。この比較が有意なのか、参考程度なのか検討しても良いかもわからない、との発言。
- 河瀬玲奈委員** 参考資料4 16ページと18ページの関係について。例えば18ページで「環境にやさしい売り方・買い方を推進する生駒」の参加状況は2.5%だが、16ページの資源循環で「エコバックを持参する」を実行している人は大きな数になる。プロジェクトと行動がひもづいた上での回答にはなっていないと認識した、との発言。
- 矢田千鶴子委員** 日常の行動はできているがプロジェクトは知らないということだろう。ECO-net生駒に関わっている者として、認知度をもっとあげ、本来ならリンクしていくものだったのだろう、との発言。
- 中西達也会長** 参加の度合いは少なくとも認知度は上げたい、との発言。
- 矢田千鶴子委員** プロジェクトの設問については、「ECO-net生駒の活動」と限定されすぎたのではないかと思う、との発言。
- 事務局** 18ページの設問はECO-net生駒として実施したものに対する問いかけ、例えば「環境にやさしい売り方・買い方を推進する生駒」については「環境にやさしい売り方・買い方キャンペーン」というプロジェクトを行ったが知っていますか？という問いかけである。16ページの設問の内容とは直接的には結びつかない、と発言。
- 横井明弘委員** 資料4 12ページ 再資源化率について、分子は理解できたが、分母は何か、との質問。
- 事務局** 事業系ごみを含めた生駒市で発生した総ごみ量が分母、よって図表19の平成28年度でいうと37,024tが分母になる。再資源化率には集団資源回収量及び定期で回収する集積場に出される資源ごみも含まれている、と回答。
- 藤堂宏子委員** 資源ごみとは生駒市が回収している資源ごみ全般である。図表21で集団資源回収量と再資源化率を上下に併記しているのでは混乱を招いているのではないか、と発言。

- 事務局** 分母と分子が表内ではっきりしていない、と回答
- 中西達也会長** 数字を整理してもらいたい、との発言。
- 竹本和靖委員** 参考資料4 18ページの結果について、「～情報提供等を進める必要があると思われまます。」と、意見が述べられている。他は事実のみの記述となっており違和感がある、との発言。
- オブザーバー** 事実のみを記載するものであり、意見部分は不要だった、との発言。
- 中西達也会長** 残りの資料を用いての説明を求める発言。
- 事務局** 参考資料1「第3次生駒市環境基本計画策定 第1回市民ワークショップ 結果概要」、参考資料2「第3次生駒市環境基本計画策定 第2回市民ワークショップ 実施概要」、参考資料3「第3次生駒市環境基本計画策定市民ワークショップ 構成表」、資料5「現行計画（第2次生駒市環境基本計画）の進捗状況の評価・報告」、資料6「現行計画の課題について」を用いて説明。
- 特に、資料6において現行計画の課題として洩れ落ちている視点がないか聞きたい、と発言。
- 中西達也会長** 資料6を中心に意見を求める発言。
- 矢田千鶴子委員** 資料6 2ページ（4）環境モデル都市アクションプランを踏まえた計画となっていない、とあるが、第2次環境基本計画策定時にはアクションプランは無かった。踏まえていないという内容は事実だが、タイトルの表現を変更してもらいたい、との発言。
- 事務局** 策定年次が違うので、それを加味して表現したい、と回答。
- 中西達也会長** 策定年次が違うため、配慮しようとしてもできなかったのだということは文章中に記載があるが、表題の表現として一考してもらいたい、との発言。
- 矢田千鶴子委員** 資料6 5ページ「3計画進捗上の課題」より、計画に記載された各プロジェクトの進捗がわからないという部分があった。これは反省もしているが、このプロジェクトについてECO-net生駒だけで行ってきたものと啓発事業的なものの両方がある。また、行政とともにすべきものもある。資料5では行政とともに行ってきたものが分離された表記になっている。どう表現すればよいか難しいと感じたことを述べた、と発言。
- 中西達也委員** 現行計画を策定した時には、市民の積極性を求める部分が強かった。そのため、進捗状況の把握に無理があるのではというプロジェクトもあったと思う。ここで言いたいのは、行政が関わるプロジェクトを作るので進捗状況を把握できるものがないのではないかと、ということだと理解していいか、との質問。
- 事務局** そのとおりであるが、進捗をまったく掴んでいないということではない。環境マネジメントシステム推進会議でも進捗を踏まえて報告している。5ページ3の上2行については表現を変更したい、と発言。
- 矢田千鶴子委員** 全体的にはECO-net生駒としても反省すべき点は多々あるので否定している訳ではない、との発言。
- 遊津隆義委員** 生駒の計画の良いところは市民サイド中心であること。逆に、悪いところは、様々なことが市民で、という点である。また、指標が1ページにまとめ

られていることはいいことだと思う。一方、行政サイドの部分について定量的に進捗管理できているのか疑問もある。今度はそれをベースとして、他市でよくある形にするのか、今までの悪いところは修正していくのか。そこから議論に入っていくかといけなのではないか。また、資料6の課題は、定性的で文章が多い。資料5は、定量的な評価になっている。市民ワークショップでの話も含めて、良いところ、悪いところを明確にすることが大事である、との発言。

中西達也会長

資料1 第3次生駒市環境基本計画の全体構成(案)について、これでもいいのかという議論が少し足りないのかと思う。現行の計画は主体がどちらかという市民になっている。それは悪いことではないが、基本計画として行政の関わりが明確になっていないのはいかなものかという問題意識を持っているということだったと受け止めている。間違っていないと思うが、根本の構成の部分について議論が深まっていないのではないかと思う。このことにつき行政としてはどう考えているか、との質問。

事務局

今後の議論の進め方によって、構成も変わってくるという認識である。現在の案は参考に枠組みとして出しているもの。過不足があれば修正していく、との回答。

遊津隆義委員

ワークショップのウェイトはどれくらいなのか。課題の出し方も、グローバルな部分から地域レベルのものまでいろいろなレベルがある。年齢も声の大きさも様々な参加者がいるワークショップでは整理しながら進める必要があると思う、との発言。

中西達也会長

第2次計画策定時、ワークショップは49回行われ、策定委員会が中心となっており、審議会はあまり中味に関わってこなかった。ワークショップの内容を取り込まないのでは、やった意味がない。しかし回数も少なくなり前回同様というには無理がある。事務局で考えているイメージがあれば教えてほしい、との発言。

事務局

1回目、2回目は終了している。3回目は「生駒の環境をより良くするための私の提案」、4回目は「提案を具体化するために何をしたら良いか」、5回目はワークショップで出た提案やアイデアの整理と発表、6回目はパブリックコメントとしてかける案を共有することとなっている。ワークショップで出た意見を全てそのまま取り込むのではなく、事務局が取りまとめて参考にする。どう取り込んでいくかが難しいところであるがやらなければならないと思っている、と回答。

中西達也会長

具体的に出てこないとわかりにくく抽象的な話になってしまう。矢田委員が先ほど話されていたワークショップのあり方について意見を促す発言。

矢田千鶴子委員

ワークショップで出た意見は、斬新で目からうろこの部分も多々ある。しかし暮らし中心の意見が多く、遊津委員もおっしゃっていたようにグローバルな意見が不足しているなどと思う部分もある。そのような部分をだれがどう補完するのか。もう一つは、全体構成案について第1章から5章までの組み立てはこうだと思う。但し4・5章についてはもう少し深める必要があると思うが、だれが深めるのか。このままではこの審議会で行うものでないかと思う。例えばリーディングプランについても素案はワークショップから出て

くるかもしれないが、行動計画と位置付ける以上は、全体プランはどうか、事務局から提示されるのか、それもワークショップで作ることになるのか。行動計画について全体は良いのだが組み立てが見えない。二つ目は推進体制のところ。現行計画でだれがどう責任を持って推進するのか、それが「進捗がわからない」というところにつながったのではないかと思う。各主体の役割が一番大事だと思う。市民だけがすること、行政だけがすること、両方がすること、大きくこの三つに分かれると思う。その時にだれがどこまで、特に行政と一緒にするところはこういった負担割合なのかかわからない。主体の役割をしっかりと考えないと、またこの計画の反省時に同様のことが起こってくる。今回の反省を踏まえ、だれがどう関わるのか、どのように進捗管理するのか明確にするべきだと思う、との発言。

中西達也会長

今、二つの意見・質問があった。一つは行動計画の作成手順をどうするのか、二つ目に各主体の役割をどう考えているのか。この二点についてどう考えているか、との質問。

事務局

行動計画を含めたリーディングプランについて、ワークショップの中で限られた時間で全てのことを網羅して提案をいただくのは難しいと思う。ワークショップの中で具体的なもの、概念的なものができると思うので、それを踏まえて事務局で咀嚼し意を汲んで、具体的な枠組みを作って環境審議会に示し揉んでもらうという流れになるかと思っている。

主体の役割も具体的なプロジェクトが決まってきたらだれがどの役割を果たすのかを併せて考えていく。それを素案の中で示していくことになるかと考えている、と回答。

下村晴意委員

市長の思いもあるだろうし、それをわかっているのは行政である。いろいろな人が思いを語ったとしても、全体像がわかって次に進む。ひとつひとつの団体やワークショップの思いを展開できるのは行政になる、との発言。

藤堂宏子委員

資料6 2ページの「行政の役割が明確でない」というのは消極的な表現だと思う。政策的なこともあるだろうし市民との関わりという部分では明確なビジョンを持っていただきたいと思う。行政がトップダウンでやりすぎてしまうと市民の意思を踏みにじることにもなるのでバランスが必要だと思うが、役割を明確にしておかないとE C O- n e t 生駒の負担が増える懸念があると思う。市民と行政だけでなく事業者も入っているのでそちらも含めて役割を明確にしてもらいたい、との発言。

矢田千鶴子委員

各分野について、自然環境分野、生活環境分野、地球環境分野は確定した表現か。まだ確定させた意識はないが、との発言。

事務局

素案ではその枠組みで示すが、まだ確定ではない、との回答。

中西達也会長

資料6「2各分野（ビジョン）の課題」の部分については、あくまで一つの視点でのたたき台だと思う。前提にはなっておらず、何も資料がないと議論できないため切り口として3つ上げているだけであり、今後も議論してもらえば良い、と発言。

矢田千鶴子委員

ただ、「3つの分野に分けることとしています。」と記載されている、との発言。

中西達也会長

これはたたき台の資料としてはこのように整理しました、ということ。

の資料は環境審議会が作成したものではない。本来はこの資料はだれが作成したと明記された方が良いのだろうが、あくまでも資料であり、この資料を作成した人の視点であり表現にこだわる必要は無い。ただ、視点ということではこの3つにこだわる必要は無いので議論を深めていけば良いと思う、との発言。

矢田千鶴子委員

個人的にはこの視点は良いと思っている、との発言。

成田智樹委員

資料5と資料6は事務局が作成したものだと思う。評価と課題も事務局が作ったものだと思う。PDCAのC（チェック）がどう機能するのが気になる。チェックが我々の役割だと思う。

資料5内2ページ、竜田川の水質について資料4内9ページの表と違うのはなぜなのか、との質問。

事務局

資料5は環境基本計画の目標に則り、年間平均値を使用している。資料4では環境基準である75%値を取るため異なる数値となっている。一般的なのは75%値だが両方を併記するのがわかりやすいと思う、と回答。

成田智樹委員

だれが見てもわかる表を付けてほしいということと、資料5 評価の上から3つ、「興味や関心を持つ人の増加につなげた。」「関心を持つ人を増やすことができた。」「児童の環境への意識の向上が図られた。」はどの指標をもって「できた」と評価されているのか。参考資料4アンケート結果7ページでは平成9年と比較して「とても関心がある」「やや関心がある」を足した割合では減っている。20年間で環境の概念も変化してくるので結果について一概には言えないものだろうと思っている。しかし「できた」という評価の指標をきちんと示してもらったほうがチェックする側としてはわかりやすい。参考程度であるというのであればこれでよいのだろうが。何を持って評価し次に何をやるのか決めた方が良い、と発言。

事務局

「評価」という言葉を使っているが、プロジェクトの評価の部分は、今迄やってきたこと、「実績」という意味で書いている。ECO-net生駒において、市民・行政が入って振り返り作業を行う中で、定性的な部分で増加したとか図ることができたという言葉を使っているのでそのまま使わせてもらった。評価という言葉は適切でなかったかもわからない。実績や経過といった表現にした方がいいのかと思っている、と発言。

成田智樹委員

これだけ読んでみると「増加したに違いない」と捉えられる。やっている人は「効果があるに違いない」と思って取り組んでいると思うが結果としては気になる、と発言。

中西達也会長

「評価」を「実績」に書き換えても良いけれど、判断材料はなにかを明確にしてほしいということだと思う。実績を書く場合であっても根拠をもって書いてほしいということ、と発言。

遊津隆義委員

アンケートについては平成9年との比較としては重視していない。しかし地域的なことグローバルな視点など見方は様々あると思うが、今回取った結果は重視すべき。アンケート結果として、お金がかかるところは難しいという意見も出てきている。ならば、環境排出権取引や、カーボンプライシングなども入れていき、“得をする”という要素を取り入れていくべき。リードする人によって変わってくる。奈良県で唯一先進的なところを

取り入れていってほしい。地域に密着し、リーダーシップを持って引っ張ってほしい、と発言。

河瀬玲奈委員

環境基本計画は環境計画の中で上位のものであると思う。3日前気候変動適応法案が閣議決定された。その中で地方における気候変動適応計画策定について都道府県市町村にも努力義務が課された。努力義務となると市町村でも90%くらいは策定されると思う。今回は現行計画との課題としてまとめられているが、今後策定されることが確実視されている適応計画もにらみながら、環境基本計画を詰めてもらいたい、と発言。

藤堂宏子委員

資料5の竜田川の水質について、水質が改善されてきた、下水道の普及率が上がった、浄化槽の補助をしたことはわかるが、市域全体の普及率だと思う。必ずしも竜田川流域の普及率ではない。指標として竜田川の水質をあげられるのであれば、それに関連するところの普及率や補助金交付件数がアップしたことを出せばいいのではないかと、との発言。

**中西達也会長
事務局**

位置関係がわからないが可能なのか、との発言。

生駒市は大きく分けると竜田川水系と富雄川水系がある。地域でおおまかにわかると思うが、担当部局が違うので分けられるかどうかは疑問がある、と回答。

中西達也会長

全域と部分的な部分で比べてもおかしいだろうということ。指摘もそのとおりかと思うので検討してほしい、との発言。

水谷知生委員

資料6についてあいまいな資料になっており、性格がわかりにくいと思った。市民アンケート調査結果から今後やらなければならないこととしてまとめられるのであればまとめればいい。アンケート調査はひとつのかたまりとして大事なものである。そこから読み取れる、何をしなければいけないのかをまとめてみるなどで示してもらおうとよい。これから何をしていくのかという視点でアンケート結果を見て何が足りないのかを整理する。それがこれからのワークショップで出てこなければこちらで考える話だとして整理する。そういうまとめ方が必要なのかと思った。そういう意味では、市民アンケート調査結果から、市民の活動を促す為には何をしなければよいのか、行政として何をするのか。それが次期計画策定にあたっての課題ではないか。それを整理していくことは、ワークショップで出てくる大事なこと、それ以外のことを洩れなく網羅できる一つのやり方なのではないかと思う、と発言。

矢田千鶴子委員

資料6のタイトルは「次期計画の課題」ではないか、と発言。

その中に市民アンケート調査結果も入れるとさらに良いと、水谷委員の意見からも感じた、と発言。

中西達也会長

アンケートをしっかりとっているのだから、そこから次期基本計画に結び付けられる材料を次回までにピックアップしてほしい、と発言。

案件1の審議を終了する発言。

案件2「歩きたばこ及び路上喫煙禁止区域の指定について」の審議を宣告。事務局へ説明を求める発言。

事務局

資料7を用いて説明。12月より、関連する6自治会等と協議を重ね、図面にある区域の指定となった。主に保育園、幼稚園、学校周辺、通勤通学時

間帯に人通りの多いところ、病院の近くなどになっている。今後のスケジュールとして、3月議会で報告し、啓発、広報での周知をおこなう。4月以降路面標識、5月号広報誌・HPへの掲載、6月に禁止区域指定の告示、取り締まり開始となる、と発言。

中西達也会長

案件2の審議を終了する発言。

案件3「その他」について、議案が無いことを確認。

事務局

次回は4月の開催を予定している。

中西達也会長

次回より、この場で今後の日程を決めた方がよいのではないか。予定表を作って記入するようにすると思う、との発言。

中西達也会長

審議会の閉会を宣言。

16時30分 閉会